

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 一人ひとりの子どもを見取り、個にあった支援の工夫
- 言語活動や体験活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を高める授業を展開する。

新野小学校
「学力向上実行プラン」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
研修主任 村上実紀子	校長:村田治久 教頭:大守衣代 教務主任:尾川弘美 佐藤夏海 株木恭祐 久米智宏 久保聡光紀 宮本敏美 天野真吾

校長

村田 治久

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題にまじめに取り組める児童が多い。 ●長い文章を正確に読み取ることが難しい。 ●語彙が乏しく、授業や学校生活の中で分かりやすく説明したり、他の人の話を理解したりすることが難しい児童が多い。	・学習の過程を通して習得した知識が定着し、他の学習の場面で活用することができる。 ・学年相応の語彙を習得し、問題を正確に読み取ったり、先生や友だちの話を聞いて、共感したり理解したりすることができる。	・何が書かれているかを捉えさせるため、教科書にアンダーラインを入れさせる。(主語や述語、筆者の考えや事例など) ・朝の活動(花まるタイム)や家庭学習などを利用し、読み書き計算等の反復学習に取り組む時間を確保する。また、読解力の基礎となる読書習慣を身につけさせる。	・教科書にアンダーラインを入れさせる指導を継続する(主語や述語、筆者の考えや事例など) ・読書時間を確保するための工夫をする。 ・漢字計算のミニテストを定期的実施し、基礎的な力の定着を図る。	・登場人物の言動にラインを引かせることで考えや様子を想像させやすくなった。 ・読書時間を十分確保することができなかった。 ・漢字計算のミニテストの継続的な実施をすることで定着につながり、自分の力も知ることができた。	・文章題(読み取り)が苦手な児童が多いため、練習問題に慣れる機会を多くとるようにする。 ・読書への関心を高めるため、家庭読書の日の積極的活用や異学年での読書を通しての交流等工夫した取り組みが必要である。 ・学習のルールづくりを学校全体で取り組む。 ・各学年の目標を設定し確実に学力が定着するようにする。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○考えたことや感想などを、作文や日記に書き表すことができる。 ●表現したいことを適切な言葉で伝えることが苦手である。 ●間違いを恐れて発表をしない児童が多い。 ●考えながら話を聞くことができない児童が多い。	・理由を含めて考えや意見を伝えることができる。 ・自分の考えと同じところや違うところを見つけながら意見を聞くことができる。	・ペア学習やグループ学習の機会を効果的に設定する。 ・ホワイトボードやICTを効果的に活用した発表や話し合い活動をさせる。 ・実態に応じためあてをもたせ、書く・発表する機会を意図的に多く設ける。(テーマ日記・行事作文・学級会・学年発表・学習発表会)	・自分の考えを発表する機会を多く設定する。いろいろなペアと考えを交換し、人によって考えが異なることに気づくことができるようにする。 ・テーマ日記の充実を図る。 ・根拠を元に自分の考えを書いたり述べたりできるように促す。	・特に低学年では、発表する機会を多くもち、いろいろな考えに触れさせることができた。 ・テーマ日記では漢字やカタカナも適切に取り入れ、意欲的に取り組む様子が見られた。 ・話し方の型を示し、繰り返し使うことで根拠を元に自分の考えを書いたり述べたりできるようになってきた。	・高学年が学校でのよいモデルとなれるよう、練習して表現力を高める必要がある。 ・ICTを使った発表を取り入れる学習では、情報活用能力とマナーの育成に取り組む必要がある。 ・詩やコラムの視写を取り入れることで、語彙を増やし表現力を高めることを目指す。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各教科の学習へ一生懸命取り組むことができる。また、家庭学習にも主体的に取り組むことができる児童が多い。 ●不得意な学習内容に対して、自分で計画を立てて克服することに課題がある。	・課題解決に向けて自分の力で粘り強く考えることができる。 ・自分の学習状況を振り返り、課題を解決できるよう質問をしたり調べたりすることができる。	・児童の主体的な体験や活動(タブレットの活用など)を授業に多く取り入れ、意欲的な活動を賞賛する。 ・授業のめあてを提示し、記述させる。 ・家庭との協力を密にし、家庭学習の習慣化や自主学習の定着化を図る。	・宿題の出し方やその評価の仕方を工夫し、めあてをもって宿題に取り組めるようにする。 ・自主学習ノートにもめあてとふり返りを書き、何の課題に取り組んでいるのか、どれくらい達成できたかを明確にして学習を積み重ねるようにする。自主学習週間を設け、ノートを紹介し合う。	・学習の流れを定着させ、めあてをはつきりもたせたりふり返る活動を意識して取り入れたりすることで児童が学習に取り組む姿勢が変わった。 ・家庭学習チャレンジの毎月のふり返りをする中で次の家庭学習の目標を立てて臨む児童の姿が見られた。	・全ての学年、教科でふり返りの活動に取り組めるようにする。 ・国語や算数など授業をモジュール的に組み立てると児童が主体的に取り組みやすい。 ・自主学習の全校的な取り組みの工夫をする。 ・個人に合っためあてをもたせ、成功体験を重ねていけるよう支援していくことで自信をもたせるようにする。

令和5年度 学力向上ロードマップ

